

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です  
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

|          |  |
|----------|--|
| レジメン名    | ベキサロテン   |
| 診療科名     | 血液・腫瘍内科  |
| 診療科責任者名  | 末永 孝生  |
| 適応がん種    | 皮膚T細胞性リンパ腫   |
| 保険適応外の使用 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 |

| がん治療ワーキンググループ使用欄 |                |
|------------------|----------------|
| 登録番号             | CTOL-002       |
| 登録日・更新日          | 2019年8月27日     |
| 削除日              |                |
| 出典               | タルグレチンカプセル添付文書 |
| 入力者              | 伊勢崎 竜也         |

投与順に記入(抗がん剤のみ)

| No. | 薬剤名:一般名<br>(薬剤名,商品名)<br>希釈液 | 規格                     | 投与量算出式 | 投与経路                 | 投与時間   | 施行日  |
|-----|-----------------------------|------------------------|--------|----------------------|--|------|
|     | No.1                        | ベキサロテン<br>(タルグレチンカプセル) | 75mg   | 300mg/m <sup>2</sup> | <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口) | 1日1回 |

|            |      |
|------------|------|
| 1コースの期間    | 設定なし |
| 投与間隔の短縮規定  | 設定なし |
| 計算後の投与量上限値 | 110% |
| 計算後の投与量下限値 | 50%  |

|          |  |
|----------|--|
| 減量・中止基準  | <p>&lt;Grade 3以上の副作用が発現した場合&gt;<br/>副作用が消失又はGrade 1以下に改善するまで休業し、1段階減量して投与を再開する(100mg/m<sup>2</sup>の場合は100mg/m<sup>2</sup>で投与を再開)。<br/>4週間休業しても、副作用が消失、又はGrade 1以下に回復しない場合には、投与を中止する。</p> <p>&lt;高トリグリセリド血症への対応&gt;<br/>血清トリグリセリド値が200mg/dLを超えた場合には、脂質異常症治療薬の処方考慮する。<br/>脂質異常症治療薬による治療を行っても血清トリグリセリド値が400mg/dLを超えている場合には脂質異常症治療薬の処方を調整する。<br/>脂質異常症治療薬の処方を調整しても、血清トリグリセリド値が500mg/dLを超えている場合には投与量を1段階ずつ減量する。<br/>また、血清トリグリセリド値が1,000mg/dLを超えた場合には、本剤を休業する。<br/>休業後、血清トリグリセリド値が400mg/dL未満で安定した場合には、休業前より1段階低用量で投与を再開する。<br/>4週間休業しても回復しない場合には、投与を中止する。</p> <p>減量の目安<br/>初回投与量 300mg/m<sup>2</sup><br/>1段階減量 200mg/m<sup>2</sup><br/>2段階減量 100mg/m<sup>2</sup></p> |
| 前投薬      | なし   |
| その他の注意事項 | <p>・下垂体性甲状腺機能低下症があらわれることがあるので、投与開始前及び投与期間中は定期的に甲状腺機能検査(甲状腺刺激ホルモン、遊離トリヨードサイロニン、遊離サイロキシン等の測定)を実施する。<br/>遊離サイロキシンが基準値から25%以上低下した場合には、レボチロキシンナトリウムの投与を行うこと。</p> <p>・空腹時血清トリグリセリド値は、本剤による治療を開始する前に正常(150mg/dL未満)であることを確認する。</p> <p>【併用禁忌】<br/>ビタミンA製剤:他のレチノイド製剤でビタミンA過剰症と類似した副作用症状の発現が報告されている。</p> <p>【併用注意】<br/>CYP3Aの基質:アトルバスタチン、シンバスタチン、ミダゾラム等 基質のAUCが低下するおそれ<br/>糖尿病用薬: インスリン、スルホニルウレア系薬剤、チアゾリジン系薬剤等 低血糖を発現するおそれ<br/>紫外線療法: PUVA療法、UVB療法等 光線過敏症を発現するおそれ</p>   |

|     |        |
|-----|--------|
| 記入者 | 伊勢崎 竜也 |
| 確認者 | 成田 健太郎 |